

## 昭和57年度第5回医学用原子分子・原子核データ ワーキンググループ会合議事録

1. 日時：昭和58年3月23日（水） 13:30～17:00
2. 場所：日本原子力研究所 本部 第5会議室
3. 出席者：尾内能夫，伊藤彬，白貝彰宏，平岡武 高田信久，高橋旦，龍福廣，  
中井洋太，喜多尾憲助  
(欠席：沼宮内弼雄，岩波茂)
4. 配布資料
  - 1) 第4回会合議事録（案）
  - 2) 「Born 近似および古典二体衝突論による阻止能の計算」（龍福廣）
  - 3) 「Ionization, excitation and charge transfer for impacts of  $H^+$ ,  $Li^{3+}$ ,  $B^{5+}$ ,  $C^{6+}$  and  $Si^{14+}$  ions on atomic hydrogen」(H. Ryufku) Rhys Rev A 25 720 (1982)
  - 4) 「トラック構造理論と枯草菌孢子に対する重イオンの致死効果」（高橋旦 他）  
放射線 9 (2) 24 (1982)
  - 5) その他 高橋委員説明試料2点
  - 6) 本WG57年度活動状況及び58年度計画（案）
5. 議 事
  - 1) 前回議事録の確認  
第4回本WG会合の議事録が原案通り承認された。  
なお同議事録中，岡本氏への名簿送付の件は，すでにJAMP 会員名簿が送られた旨説明があった。
  - 2) 荷電粒子の阻止能について（龍福委員）  
ボルン近似及び古典二体衝突理論によって行なわれた陽子に対する水素原子の阻止能の計算結果が紹介された（配布資料（2））。又，阻止能計算の基礎となる素過程の断面 をユニタリ化DWBA（UWBA）によって計算した結果も紹介され，質疑が行なわれた（資料（3））
  - 3) track 構造理論と微生物孢子に対する重イオンの致死効果（高橋委員）  
He, C, N, O, Neなどの重イオンによって行なわれた，枯草菌孢子の不活性化

の実験が、遠達効果を加えたKatzの理論と比較され、重イオンの示す生物効果の特長が指摘された。(資料4)、5))

4) 本WG本年度活動報告と58年度計画について

来る3月25日に行なわれるシグマ研究委員会運営委員会で説明する本WGの活動報告と明年度計画(資料(6))が提出され、原案通りで差支えないことが認められた。

6. 次回予定

5月18日 東京(原研本部)